

# 2023 年度環境報告書

**「私」「私たち」から始める、「誰一人取り残さない、ずっとつづく世界とくらし」づくり！**

伝統的な文化や産業、みどり豊かな山々、そしてきれいな水にめぐまれたこの福島県をこどもたちや孫たちの世代に伝え残していきたい。美しい会津の風景を守りたい。



写真提供 Takashi Endoh さん

## はじめに

2022 年は、熱波、山火事、干ばつ、暴風雨、洪水、氷河の崩落など、世界はますます激しい気候災害に襲われました。数十年ぶり、数百年ぶりともいわれる気候の変化を聴く機会は毎年増えています。身近なところでも、桜の花の開花時期が早くなったり、豪雨によって橋梁が流されて生活に支障をきたすような災害も発生しています。

その原因は「地球温暖化」であり、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、第6次評価報告書で「人間活動が大気・海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。」とし、第5次評価報告書の「人間活動による温暖化の影響については極めて高い（95%以上）」とする報告より、確信度を引き上げた表現となりました。

世界の平均気温は工業化前と比べて、2011～2020年間で1.09℃上昇したとしています。この観測値は過去10万年間で最も温暖だった数百年間の推定気温と比べても前例のないものです。

人間の影響が、熱波と干ばつの同時発生、火災の発生しやすい高温、乾燥、強風等の気象条件や極端な降雨や河川氾濫などの発生頻度を高めています。

その為、温室効果ガスの排出実質ゼロを目指す「カーボンニュートラル」は、今や世界的な潮流となっています。2050年など年限を切ったカーボンニュートラル宣言国は、年々増加しており、すでに気候変動対策は、いかに目標を達成するかという実行段階に入っています。

福島県でも、2021年3月2月の県議会において、内堀知事が、2050年までに脱炭素社会の実現を目指す、「福島県2050年カーボンニュートラル」を宣言し、それは市町村にも広がり、会津若松市や喜多方市をはじめ、県内の14市町村が「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」を表明しています。

コープあいづでは、「温室効果ガス削減計画」を作成し、2030年までに2013年度比43%、2050年までに90%削減の目標を掲げ、天井照明のLED化や冷凍冷蔵ケースを効率の良いものに変更するなど、省エネの取り組みを進めてきました。

そして、2022年4月からは事業活動で排出しているCO<sub>2</sub>の約86%を占める電力の対策として、再生可能エネルギーを多く含む電力を採用し、すべての事業所の電力を地元の会津エナジーから調達する事としました。

このことで、会津エナジー様より電力を調達する事によって、2022年度の温室効果ガス発生重量は1,433tとなり、前年対比で72.5%の削減、2013年度対比約73.2%の削減となります。

更に削減できるよう、古くなった冷凍冷蔵ケースや空調機の更新、適正な温度での運用、職員全員の省エネ行動によって、温室効果ガス削減計画の達成を目指し、国や福島県が宣言している「カーボンニュートラル」実現に向け、努力をしていきます。

## 環境方針

\*\*\*\*\*コープあいづが目指すこと（ビジョン）\*\*\*\*\*

「この地域に生協があってよかった。生協があるから暮らしていける。」と組合員さんに喜ばれ、必要とされ続けるコープあいづを目指します。

### 環 境 方 針

生活協同組合コープあいづは、「一人は万人のために 万人は一人のために そして次世代のために」の精神を掲げ、「自立した市民の協同の力で、人間らしい暮らしを創造し、持続可能な社会を実現する」という 21 世紀の生協の理念に基づいて、環境問題に取り組みます。

「持続可能な社会」を実現するために、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した事業と活動を行います。

原発に頼らないエネルギー政策や再生可能エネルギーの推進の為、施設や設備の省エネ化や再生可能エネルギーの利用促進を行います。

そして、健全な経営と適正な事業運営を通して、組合員の暮らしに貢献する事業活動や社会的役割を發揮し地域社会との結びつきを強め、地域社会に貢献できる存在を目指しています。

### \*\*\*\*\* 方 針 \*\*\*\*\*

生活協同組合コープあいづは、組合員の暮らしと地域社会に貢献するために、事業活動における環境負荷の軽減と汚染の予防、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

法令、条例、その他受入れを決めた要求事項などを遵守します。

#### 1. 脱炭素社会に向け、組合員と一緒に取り組みます。

- ・ CO<sub>2</sub>排出総量の総量削減に取り組みます。
- ・ 再生可能エネルギーの推進・拡大に取り組みます。
- ・ エネルギーの効率的な使用を行います。

#### 2. 持続可能な社会づくりの取り組みを推進します。

- ・ 廃棄物の削減の為、商品の管理水準を高めて廃棄ロス等を減らすとともに、事業活動から発生する廃棄物の削減、食品ロスの削減に取り組みます。
- ・ 資源の 3 R の取り組み、食品リサイクルの向上を行います。

#### 3. 組合員と一緒に地域の環境保全活動を推進していきます。

- ・ CO・OP 商品や産直商品の利用普及、エシカル消費を組合員と一緒に推進していきます。
- ・ 暮らしの中の省エネについて、組合員と一緒に推進していきます。

#### 4. 私たちは、環境側面に関わる法規制等を順守し、汚染の予防に努めます。全職員及び業務委託先に教育や啓発を行い、環境保全活動を推進していきます。

この環境方針を広く公開し、環境活動の取組み状況について定期的に公表します。

2021年5月17日制定

生活協同組合コープあいづ 理事長 吉川毅一

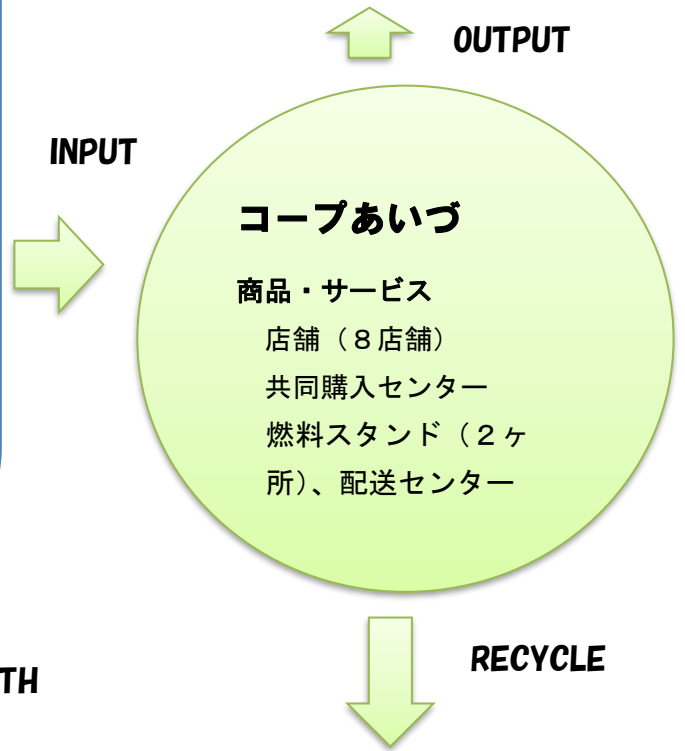
# 2022年度 事業活動による環境負荷

## 主なINPUT（投入）

- 商品
- 工用原材料
- エネルギー、水資源（前年比）
  - 電気・・・8,253,925kWh（95%）
  - ガス（LPG）・・・64,047m<sup>3</sup>（86%）
  - 上水道・・・37,153m<sup>3</sup>（97%）
  - 灯油・・・17,967ℓ（52%）
  - ガソリン・・・23,973ℓ（121%）
  - 軽油・・・118,544ℓ（104%）
- 資材（前年比）
  - レジ袋・・・3,139kg（89%）
  - 容器包装資材（トレイ・ラップ等）
    - ・・・111,242kg（102%）
  - 内袋・・・2,270kg（今回より試算）
  - ドライアイス・・・49,080kg（105%）
  - コピー用紙・・・10,472kg（101%）
  - 新聞チラシ・・・53,812kg（91%）
  - POP用紙・・・5,919kg（75%）
  - 商品案内・・・298,240kg（102%）

## OUTPUT（排出）

- 廃棄物（前年比）
  - 一般廃棄物・・・413,771kg（140%）
  - 産業廃棄物・・・109,920kg（102%）
- 大気への排出（前年比）
  - CO<sub>2</sub>・・・1,433t（22%）
  - フロン（CO<sub>2</sub>）・・・1,266t（144%）



## RECYCLE（リサイクル）

- 事業活動の中で取り組んでいるもの（前年比）
  - 商品案内・・・297,550kg（96%）
  - 共同購入シッパー内袋・・・2,000kg（96%）
  - 食品残さ・・・146,090kg（91%）
  - 廃食油・・・7,132kg（64%）
  - 新聞・雑誌・・・5,600kg（95%）
  - ビン・缶・ペット・・・950kg（135%）
  - ダンボール・・・282,074kg（96%）
- 組合員のリサイクル活動（前年比）
  - 牛乳パック・・・8,454kg（94%）
  - 発泡トレイ・・・4,419kg（96%）
  - 透明トレイ・・・2,434kg（105%）
  - 新聞（エコステ）・・・2,605kg（79%）
  - 雑誌（エコステ）・・・9,545kg（112%）
  - ダンボール（エコステ）・・・6,590kg（160%）
  - ペットボトルキャップ 430kg（222%）

# 持続可能な社会を目指して



## コープあいづは、日本生協連の「SDGs行動宣言」に賛同し、持続可能な社会づくりに取り組みます。

生協は、くらしや社会を良くするために、以前から組合員さんと一緒にコープ商品や事業を通じて、社会的な課題に取り組んできました。

コープあいづでも、ユニセフの活動や食育の推進、環境に配慮した商品の利用や普及、ピースアクションなどの平和への取り組みを行ってきました。

その取り組みを通して、17の目標を169のターゲット実現に向け、コープあいづでも日本生協連の「SDGs行動宣言」としてまとめられた7つの取り組みを一緒に進め、SDGsの実現を目指していきます。



### □SDGs行動宣言

1. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます。
2. 地球温暖化対策を推進し再生可能エネルギーを利用・普及します。
3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します。
4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します。
5. ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します。
6. 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します。
7. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます。

コープあいづは、SDGs（持続可能な開発目標）に貢献することを約束（コミット）します。持続可能な社会の実現の為、地球上のみんなが「笑顔」で暮らせる為、日本生協連の「SDGs行動宣言」を実現する為に取り組むを進めていきます。

### □コープあいづの取り組み

番号	主たる目標と関連する目標	私たちが進めていく課題
1	12 つくる責任 つかう責任 1 貧困をなくそう、3 すべての人に健康と福祉を、6 安全な水とトイレを世界中に、14 海の豊かさを守ろう、15 陸の豊かさも守ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エシカル消費を進めます。</li> <li>・産直商品を普及拡大していきます。</li> </ul>
2	7 再生可能エネルギーにわたる持続可能なエネルギー 13 気候変動に具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温室効果ガスの排出量を削減していきます。</li> <li>・再生可能エネルギーを積極的に取り入れていきます。</li> </ul>
3	1 貧困をなくそう、2 健康をこころからつくりだす、4 質の高い教育をみんなに、6 安全な水とトイレを世界中に、10 人や国の不平等をなくそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニセフ募金に取り組めます。</li> <li>・子ども食堂などの支援やフードバンクやフードバンクに取り組めます。</li> </ul>



4	16 平和と正義を 守りつづける 17 持続可能な パートナーシップ	・平和の為の戦争展など、平和の大切さを学び継承していく活動に取り組みます。
5	5 ジェンダー平等を 実現する 8 持続可能な 産業を創出する 10 人や国の 格差をなくす	・ジェンダーフリーと多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。
6	11 持続可能な 都市とコミュニティ 9 持続可能な 消費と生産 3 気候変動に 適応する 10 人や国の 格差をなくす 14 持続可能な 海洋資源を 豊かにする 15 持続可能な 陸域生態系を 豊かにする 17 持続可能な パートナーシップ	・地域の見守り活動や、移動販売を通じて、地域における役割を果たしていきます。
7	3 気候変動に 適応する 11 持続可能な 都市とコミュニティ	・より健康的な食生活を支えていく商品の普及を組合員と一緒に進めていきます。

※SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。SDGsは「誰一人取り残さない「No one will be left behind」ことを宣言し、経済、社会、環境をめぐる幅広い課題に、統合的、包括的に全世界で取り組むことを決めたものです。

## 地球温暖化防止対策の推進



### CO<sub>2</sub>削減の取り組み

2023年3月13日（月）から3月20日（月）にかけて、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第58回総会が、インターラーケン（スイス連邦）で開催され、IPCC第6次評価報告書（AR6）統合報告書の政策決定者向け要約が承認され、同報告書の本体が採択されました。

これによると、「人間活動が主に温室効果ガスの排出を通して地球温暖化を引き起こしてきたことは疑う余地がない」、「継続的な温室効果ガスの排出は更なる地球温暖化をもたらし、短期のうちに1.5℃に達する」との厳しい見通しが示されました。

これは、この10年間に全ての部門において急速かつ大幅で、即時の温室効果ガス排出削減の必要性を示すものです。今すぐ対策を講じることで、海面水位の上昇、洪水の増加、熱中症の増加など、温暖化に関連したリスクを抑えることが可能であることも示されました。

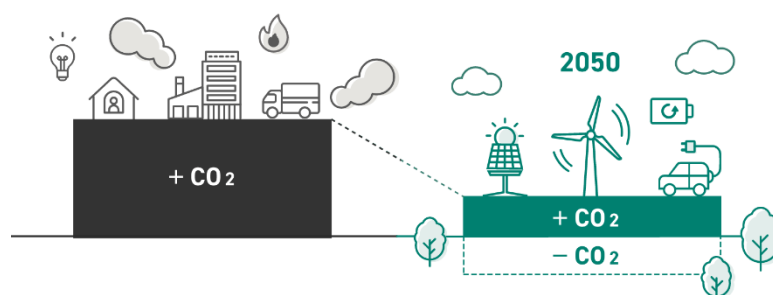
近年、世界各地で頻発している異常気象。世界気象機関によると、暴風雨や洪水、干ばつといった気象災害の発生件数が1970年から2019年の50年間で5倍近くに増加しているといえます。

日本でも、2022年は気候の異常さが際立った一年で、夏の暑さや水不足、絶え間ない台風の上陸や線状降水帯（いわゆるゲリラ豪雨）の発生があり、深刻な災害をもたらし、私たちの生活にも大きな影響がありました。

IPCCの科学的知見を踏まえ、緩和策・適応策の両面からの対策を強化していく必要があります。

2050年カーボンニュートラルを目指していく為には、脱炭素で豊かな暮らしへのライフスタイル変革が必要となります。

私たち、生活協同組合としても、暮らしを守る立場から、今後一層の努力が必要になってきます。



環境省 脱炭素ポータル より

## 生協の取り組み

全国の生協では、2030年に温室効果ガスを2013年度比で40%削減することを目指しています。2021年度の全国生協の温室効果ガス排出総量は61万404トンとなり、35%まで削減できています。供給高（売上高）1億円あたりのCO2排出量では、45%の削減となっており、再生可能エネルギー主体の電力調達が進んだ結果とみています。

省エネルギー状況は供給増にともない車両燃料が増加したものの、全体としてはほぼ前年並みとなり、再生可能エネルギーの導入も進展しました（再生可能エネルギー導入率49%）。次世代車両導入率は0.6%、自然冷媒導入率は2.7%にとどまっているため、今後の課題となっています。



## コープあいつの温室効果ガス削減

**温室効果ガスの排出量を、2030年までに2013年比43%以上削減する。  
2050年までに90%以上削減する。**

コープあいつでは、「温室効果ガス削減計画」を作成し、2030年までに2013年度比43%、2050年までに90%削減の目標を掲げ、天井照明のLED化や冷凍冷蔵ケースを効率の良いものに変更するなど、省エネの取り組みを進めてきています。

これまでにも、省エネによる温室効果ガス削減に取り組んできましたが、大きな削減とはなっていません。高い目標を達成するためには、温室効果ガスの約87%を占める電気での削減が鍵となります。

目標を達成するために、コープあいつでは全ての事業所の電気（看板などの定額の電気を除く）を地元の会津エナジー様より調達する事を決め、4月より切り替えを行っています。

会津エナジー様の調達する電力には、喜多方市にある会津電力の雄国太陽光発電所など、再生可能エネルギーの電力が多く含まれます。

その電力を使用していることから、コープあいつ全体の温室効果ガス排出量は、かなり低く抑えることができました。

国や福島県が宣言している「カーボンニュートラル」実現に向け、更に努力をしていきます。



会津電力 雄国太陽光発電所（喜多方市）

## CO<sub>2</sub>の総量削減に取り組んでいます。

～昨年より約 4,001t削減できました～

削減率は、前年比 73.6%削減、2013 年度対比 77.6%の削減となり、2030 年度末目標を前倒しで達成できました！

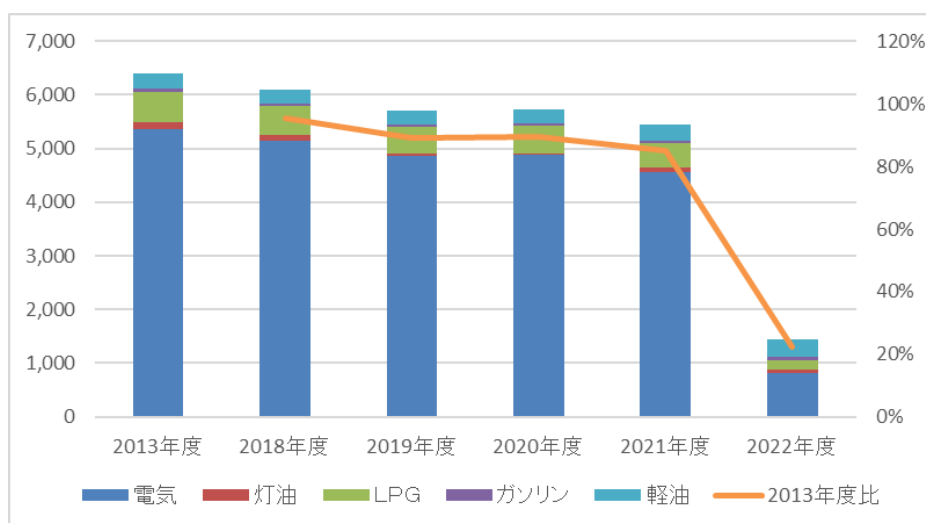
CO<sub>2</sub>の発生源をエネルギー別でみると、ほとんどが電気によるものとなっています（全体の約 87%）。次にLPG、宅配事業による軽油の使用の順となり、それらで全体の 97%を占めています。CO<sub>2</sub>削減では、そのエネルギーを減らすことが必要となります。

2022 年度のコープあいつが事業より排出している温室効果ガスの量は、約 1,433t-CO<sub>2</sub> となり、前年度対比約 26.4%（73.6%削減）、2013 年度対比 22.4%（77.6%削減）となりました。

進んだ要因として、電力の調達先を温室効果ガス排出係数の低い、会津エネルギー様に変更したことです。

これまで調達していたところと比較すると、約 75%もの削減となります。

進んでいないところとしては、宅配事業の車両燃料の削減です。配送コースの効率化や省エネ運転の推奨などの対策を取っていますが、事業拡大により増加します。車両のEV化などの対策は効果的ではありませんが、価格面や性能面でまだ実用的ではないと判断しています。



	2013年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年比	
電気	5,353	5,138	4,866	4,882	4,551	825	-3,726	18%
灯油	140	111	49	34	86	45	-41	52%
LPG	571	541	484	506	456	192	-264	42%
ガソリン	58	53	48	53	46	60	14	130%
軽油	274	262	258	252	299	311	12	104%
CO <sub>2</sub> 排出量	6,396	6,105	5,703	5,728	5,434	1,433	-4,001	26.4%
2013年度比		95.5%	89.2%	89.5%	85.0%	22.4%		

※電気のCO<sub>2</sub>排出量の計算には、「基礎排出係数」を使用しています。

2022 年度の実績は、令和 5 年提出用の「電気事業者別排出係数一覧」を使用しています。

- ・2022 年度＝会津エネルギー：0.0001t-CO<sub>2</sub>/kWh
- ・2021 年度＝東北電力：0.000476t-CO<sub>2</sub>/kWh



## 省エネルギーの取り組み



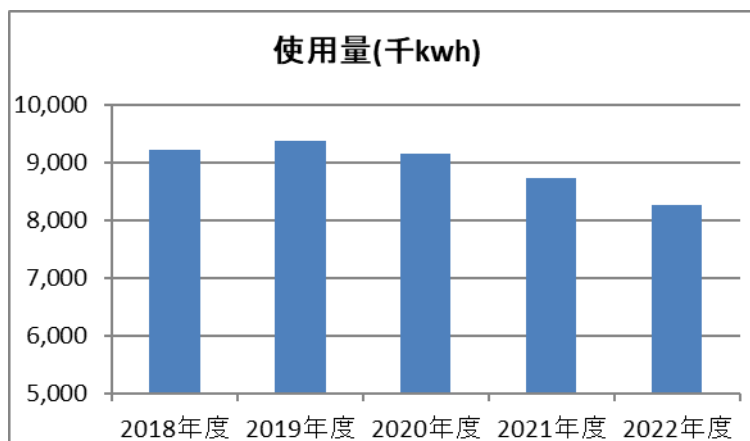
### 電気使用量の削減に取り組んでいます ～昨年より約 6%削減できました～

コープあいつの電気の使用で、一番多くを占めるのがお店の冷ケースによるものです。次に空調機、照明の順となっています。

2022年度は、電力の調達先を変更したことが大きく影響していますが、電力不足への対応や、電力の高騰に対する経費削減の取組として、7月より店舗の天井照明を約5割消しての営業や青果や日配などの冷蔵多段ケースの照明を消灯するなどの対策を行い、省エネができています。

また、店舗の省エネ対策として、ファイナルゲート社による省エネチューニングとして、空調機や冷ケースの室外機の洗浄、冷ケースの設定温度の適正化、不要な冷却の停止などを行うことで電気使用量の削減が進みました。

今後は、古くて冷蔵効率が良くない冷凍冷蔵ケースの入れ替えなどを計画的に進めるなど、更に省エネをすすめていきます。

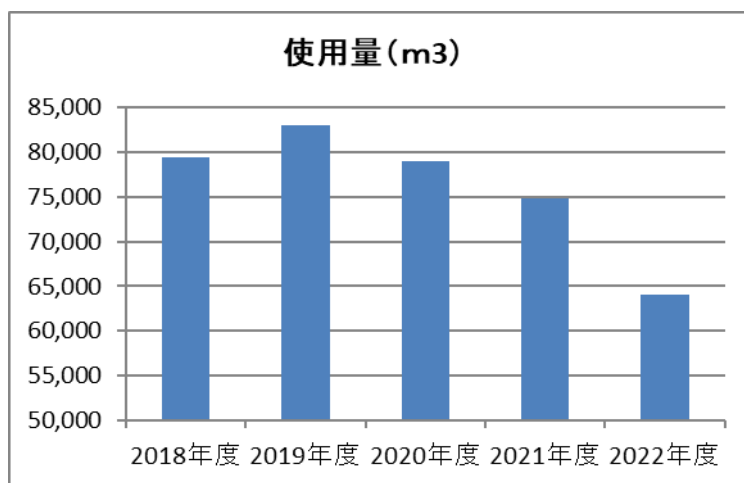


### LPガス使用量の削減に取り組んでいます ～昨年より約 14%削減できました～

LPガスは、3店舗の空調機での使用と5店舗の厨房で使用しているス式フライヤーの使用によるものが殆どを占めます。その中でも、空調機の使用によるものが多くを占めています。

2022年度は、ガスヒーポンを使用して3店舗で省エネチューニングを行い、室外機の定期的な清掃を行いました。

また、一部店舗の1系統でガスヒーポンから電気式の空調機への入れ替えもあり、使用量が削減できています。電気の使用量は、効率のより空調機への入れ替えの為、目立った増加とはなりませんでした。



## 車両燃料使用抑制に取り組んでいますが、事業拡大により増加しています ～昨年より軽油使用量は約4%の増加、ガソリン使用量は約21%の増加でした～

燃料の使用で、一番多いのは宅配事業で使用するトラックの軽油です。また、移動販売車両によるトラックの軽油使用量も増えてきています。

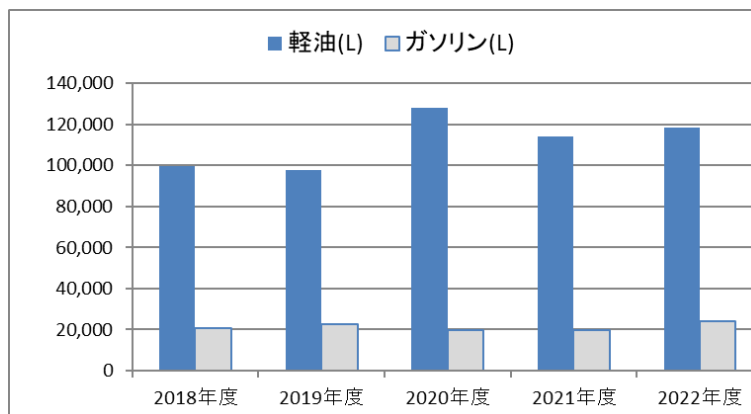
特に宅配事業では、利用者を増やす計画を設定し、営業活動を実施しており、年々増加しています。その為、配送ポイントが増え、走行距離が伸びています。その為、地図システムを利用して配送コースの効率化を図ったり、ドライブレコーダーによって急発進や急停車、無駄なアイドリングストップがなかったかがデータ化されることによって、担当者への安全運転と省エネ運転の指導を行うことにより、車両燃料を効率よく利用する取り組みをすすめています。

車両燃料は事業を行う上で欠かせませんが、今後も営業実績も上げながら、省エネ運転に心がけることにより、使用抑制に努めていきます。

運輸部門のエネルギー削減では、自動車のEV化も必要な事ですが、小型のEVトラックの開発はこれからの課題となっており、価格面や使い勝手などからもすぐに導入する事は難しいと考えています。

当面は、全職員を対象とした環境教育の中で省エネ運転を学び、安全運転と併せて実践することで、エネルギーの使用の合理化の努力をしていきたいと思えます。

当面は、全職員を対象とした環境教育の中で省エネ運転を学び、安全運転と併せて実践することで、エネルギーの使用の合理化の努力をしていきたいと思えます。

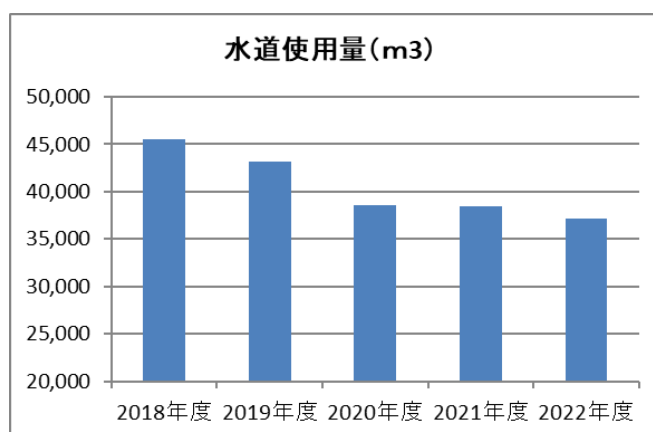


## 水道使用量の削減に取り組んでいます ～前年より3%削減できました～

水道使用の殆どが、店舗での商品加工やトイレでの使用です。

商品加工やトイレの使用は、削減することが難しいのですが、日ごろの節水に心掛けています。

また、毎月の使用量を点検し、無駄な使用実態がないか調査したり、冬期間の水道管の破損などによる水漏れの早期発見に心掛けています。



## レジ袋削減に取り組んでいます ～レジ袋の辞退率は 89.1%、約 423 万枚の節約～

レジ袋の辞退率は、約 89.1%で、前年度より 0.2%低い実績となりましたが、90%近い辞退率で推移しており、多くの組合員さんに協力いただいています。

また、そのことによる削減効果は約 423 万枚の削減となり、削減重量は約 28 t、原油換算で 35k1、CO<sub>2</sub>換算では約 14 t もの削減効果となります。

レジ袋の削減は、ごみ減量や地球温暖化対策だけではなく、無駄なものを使わ

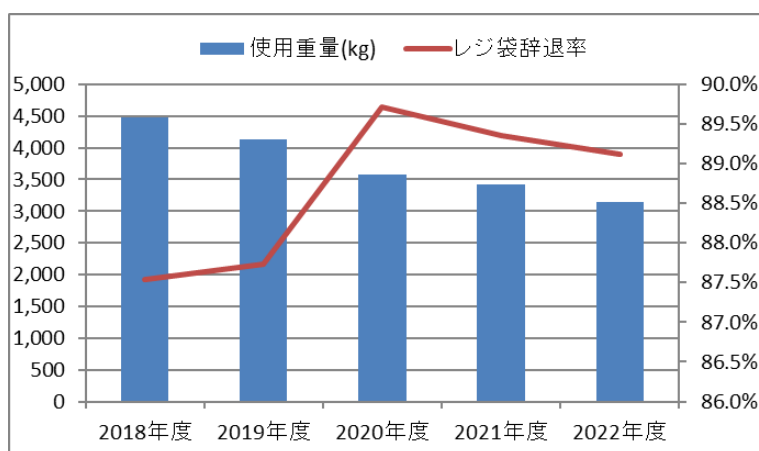
ない心や考え方を持つことによって、暮らしの見直し活動の取り組みのひとつであると考えています。その推進の為、「レジ袋の無料配布中止」や「マイバッグ持参運動」を進めています。

また、会津若松市と「レジ袋削減に関する協定」を締結し一緒に削減の活動を進めています。

福島県とは、「マイバッグ推進デー協力店」に登録し、店内放送によって、マイバッグ持参を呼び掛けています。

また、使用しているよりレジ袋の材質は、バイオマス素材のものに変更し、石油資源の削減にも貢献しています。

ゴミ袋として使用されている方もあり、辞退率を 100%とすることは簡単ではないと思いますが、引き続き店内放送などを通じ、マイバッグの使用を呼び掛けてきます。



## 持続可能な生産と消費の為に 資源の使用量抑制に取り組んでいます



コープあいづでは事業活動を通して、大量の資源を使っています。事業拡大により、資源の使用量は増加していきます。しかし、地球上の資源には限りがあります。

持続可能な社会に向けては、限りある資源を有効活用し、できるだけ使用量の抑制ができるよう取り組んでいく事、循環型社会を作っていく事が重要です。

循環型社会を実現するためには、無駄なものは作らない（買わない）、作った（買った）ものは長く使う、ごみになってしまったものはリサイクルして資源を有効に利用する、ということが大切です。

生協では、リデュース（Reduce）＝出すごみの総量を減らすこと、リユース（Reuse）＝再利用すること、リサイクル（Recycle）＝再生産に回すこと。この3Rをすすめ、海に流入するプラスチックを減らす努力をしています。

## 容器包装の使用量の抑制に取り組んでいます ～前年より2%増加しました～

生協の店舗では、組合員さんが魚や肉、お惣菜など、自由の商品を選んで購入できるよう、ほとんどの商品は、発泡トレーやラップなどの容器包装を使用しています。

食品を安全で衛生的に、しかも便利に消費者に届ける為に使用しており、店舗などでの販売には欠かせません。

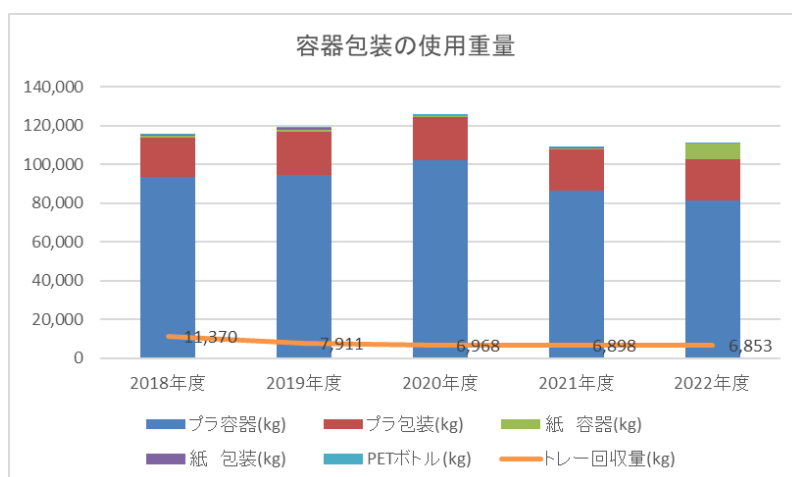
しかし、容器包装は、ほとんどが化石燃料から作られており、少しでも使用量を減らしたり、店頭での回収を行う事が必要だと考えています。

しかしながら、2022年度はプラスチック製容器の使用重量は2%増加する結果となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の為、2019年よりコロッケなどのお惣菜などでは、バラ販売がなくなり、パックでの販売が多くなりました。2021年度には前年より削減ができましたが、この間増加傾向にあります。

その中でも、できるだけ軽いものを採用するなど、少しでも減量できるように努力してきました。

事業拡大により増加するものでもあるため、できるだけ多くの食品トレーを回収するよう努力しています。店舗のバックヤードや休憩室から出される容器包装に関しても、回収ボックスに入れるように教育を行っています。

しかしながら、2022年度の回収重量は6,853kgとなっており、昨年度より1%少ない回収重量となりました。ここ数年、回収重量は減ってきています。原因などは分かりませんが、回収重量のお知らせや、組合員さんに回収の必要性をお知らせするなど、回収が進むよう、努力をしています。



### <組合員のみなさんへ>

コープあいづでは、食品トレーの回収を行っています。回収にご協力ください。

リサイクルの際は、お皿を洗うと同じように、洗剤で洗い、良く乾かしてからリサイクルボックスに入れていただきますよう、おねがいたします。



## 紙類の使用量の抑制に取り組んでいます ～前年より1%削減できました～

紙類の使用量で、一番多い物は宅配事業で配布している商品案内で、年間約298tにもなります。

次に多い物は新聞折り込みチラシで年間約54tもの紙を使用します。

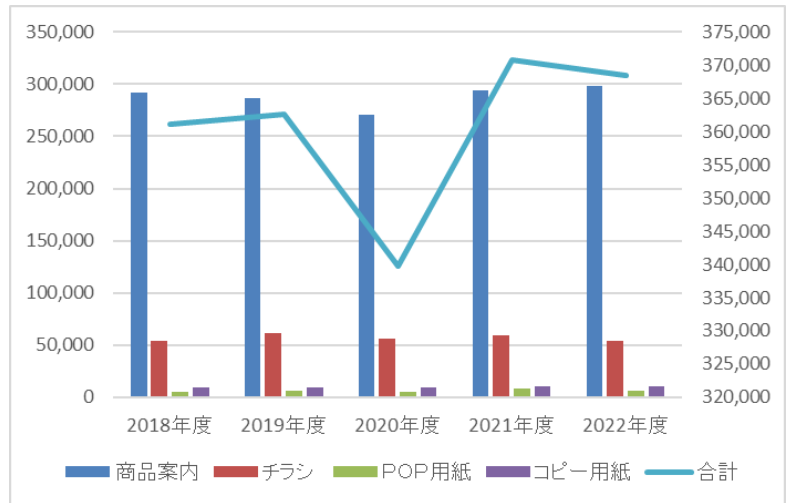
どちらも事業活動には欠かせない物であり、減らすことは難しいのですが、商品案内は配達時に回収しており、すべてリサイクルに回しています。

それ以外で多いものは、事務所で使用するコピー用紙で年間約10tにもなります。このような用紙は、事業所にある分別ボックスで保管し、リサイクルに回しています。個人情報や経理情報が載っているものも、専用の業者の方に回収頂き、リサイクルに回しています。

また、お店のポップ用紙も多く使用しており、年間約6tにもなります。こちらに関しても、古紙回収業者に持ち込み、リサイクルしています。

事業や業務で使用する為、減すことが難しいのですが、ごみ箱に捨てるのではなく、小さな紙でもリサイクルに回すよう、職員教育を行っています。

また今後、商品案内はDXを活用し、利用されないカタログをお届けしないようにするなど、少しでも不要なカタログをなくし、資源の無駄遣いを減らすようなことも検討していきます。



## リサイクル推進の取り組み

持続可能な循環型社会を目指して、組合員さんと一緒にリサイクル活動の推進を行っています。

## 紙パックの回収に取り組んでいます ～8,454kgの回収を行いました～

牛乳パックなどの紙パック回収は、1990年より組合員さんが主体的に取り組む事から始まり、現在では各店舗のリサイクルボックスや宅配のトラックで回収しています。

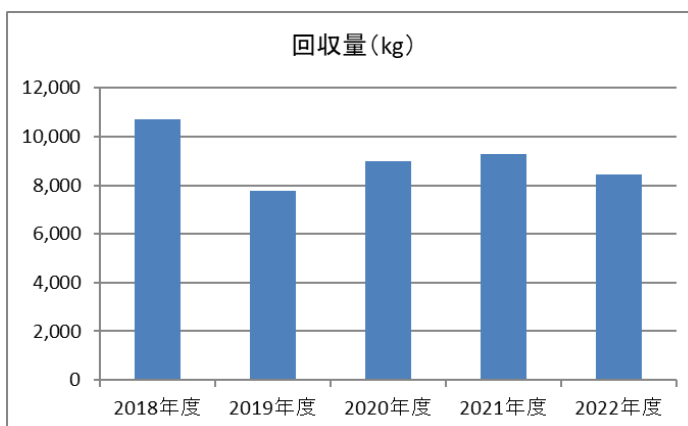


組合員さんが回収ボックスに入れていただいた紙パックは、店長などが古紙問屋に持ち込んでいますが、いづれ店や宅配事業で回収された牛乳パックは、会津若松市内にある共同作業所は無償でお渡ししており、共同作業所の運営資金として活用されています。

2022年度は、8,454kg（前年比約91%）の牛乳パックを回収しました。昨年度より838kg少なくなりました。ただし、牛乳パックのリサイクルは定着しているので、

コープあいづでは、牛乳パックから作られたコアノンロールなどの普及を行っており、リサイクルの輪が途切れないよう努力しています。

※2022年度の回収では、牛乳パック換算で259,620枚の回収ができました。これは、コアノンロールにすると43,270点にもなります。



## 食品トレーの回収に取り組んでいます ～6,853kgの回収を行いました～

コープあいづでは、毎年多くの容器包装を使用しています。そして、「容器包装リサイクル法」によって、自らリサイクルする事が義務付けられています。すべてをリサイクルできない為、「日本容器包装リサイクル協会」に委託しています。しかしながら、その責任を少しでも果たすために、店頭回収を行っています。

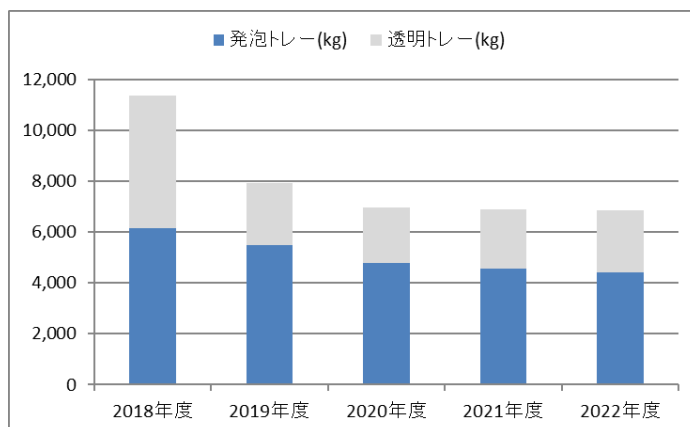
コープあいづでは、発泡トレーと透明トレーの2種類の回収を行っており、組合員さんにご協力頂いています。

2022年度の回収実績は、発泡トレー4,419kg（前年比約96%）と透明トレー2,434kg（前年比約105%）の回収を行い、合計6,853kg（前年比99%）となりました。

回収は、コープあいづ、容器包装問屋さん、メーカーさんが協力し合い、納品するトラックの帰り便で回収を行うことで、回収するトラックの燃料に使用を抑え、お互いに効率のより回収を行っています。

回収された発泡トレーは、主に発泡トレーの原材料としてリサイクルされます。透明トレーは、それぞれの素材に分別され、再生トレーの原材料などに活用されます。

そして、コープあいづでは、回収されたトレーなどでリサイクルされた再生トレーを積極的に使用し、石油資源の節約やCO<sub>2</sub>排出量の削減につなげています。



## 宅配事業で使用するシッパ-の内袋を回収しています

～2,000kg の回収を行いました(回収率 91.6%)～

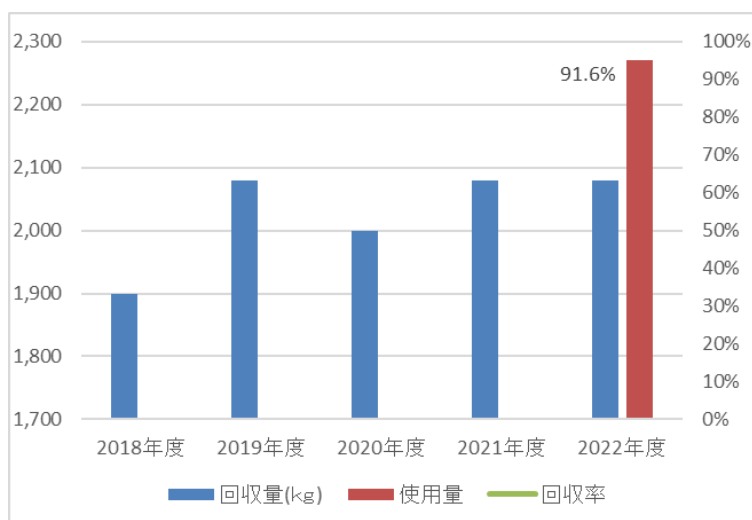
宅配事業で使用する保冷容器には、商品を保護するために薄いシートを内側に使用しており、その回収を行っています。

2022年度は2,000kgの回収を行うことができました。前年比では、約96%と昨年より若干少ない実績となっています。

今回より回収率を計算していますが、91.6%と高い回収率となっています。

回収された内袋は、会津若松市内のリサイクル工場でRPF (Refuse Paper & Plastic Fuel) 化し、製紙会社や発電所などで使う固形燃料として利用されます。

\*使用量は、コープ東北で使用している量を、供給按分して試算しています。



## 商品案内の回収に取り組んでいます ～298,240kg の回収を行いました～

コープあいづにおける紙の使用量で、一番多くを占めるのが宅配事業で組合員に配布する商品案内(カタログ)となります。

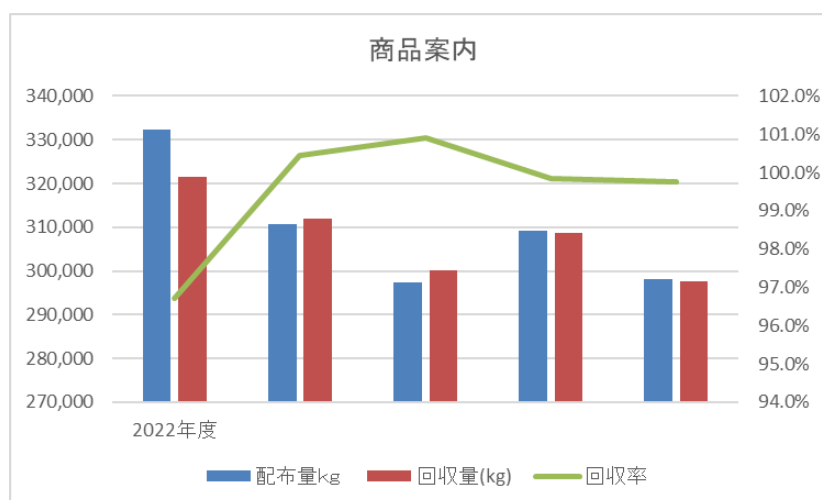
2022年度は298,240kg(前年比約96%)の商品案内(チラシやニュースなどを含む)を配布し、297,500kg(前年比約96%)の回収を行い、リサイクルを行いました。

リサイクル率は、約99%となり、ほぼすべてリサイクルに回せています。

宅配事業は、毎週組合員宅にお邪魔するため、その際に容器などと一緒に回収できるので、効率よくリサイクルができます。

ただし、カタログでは、食品だけでなく雑貨や日用品、衣料品など、幅広い品ぞろえをするため、配布重量が増えてしまいます。今後は不要なカタログはDXなどを活用して配布を中止したりすることも含め、無駄な配布を抑制する取り組みも行っていきます。

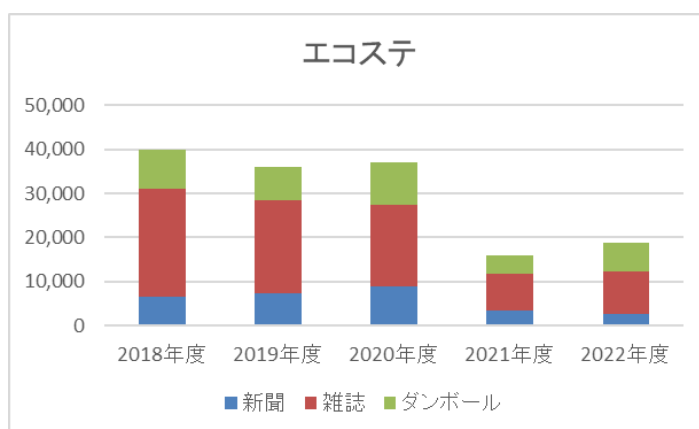
\*回収率は100%を超えている年がありますが、担当者ニュースの発行など、一部重量把握ができていないためです。



## エコ・ステ(古紙の回収ステーション) ~18,740kg の回収を行いました~

2011年度から、ぷらご店の駐車場で始まった「エコ・ステ」は、たいへん多くの組合員さんにご利用いただいています。

冬期間は雪の為に休止していますが、2022年度は雑誌2,605kg(前年比約78%)、新聞9,545kg(前年比約112%)、ダンボール6,590kg(前年比約160%)、合計で18,740kg(前年比117%)の回収となりました。



2021年度からは、業者都合によりポイント制はなくなったことから、残念ながら回収量が減ってきています。

※喜多方市にある荒川産業さんが回収していますが、売却益は地域の諸活動を応援するために資金として寄付されており、コープあいづも参加している「平和のための戦争展・喜多方」にも支援いただいております。



## 廃棄物削減の取り組み



コープあいづから排出される廃棄物で、一番重量が多い物は事業系一般廃棄物で413,771kg(前年比約140%)となっています。中でも、食品廃棄物は352,081kg(前年比約97%)と多くを占めています。一般廃棄物の重量が多くなった要因は、食品リサイクル量が少なくなっていることです。前年度より13,902kgも少なくなりました。

## 食品リサイクル ~リサイクル率は41.5%となっています~

食品リサイクル法では、食品関連事業者による事業系食品廃棄物等の発生抑制が求められており、リサイクル率も毎年改善していく必要があります。

2022年度は、食品残渣総量は352,081kg(前年比約97%)、そのうち146,090kg(前年比91%)をリサイクルしており、リサイクル率は41.5%となっており、前年比2.7%の減少となっています。

リサイクル率が低下した理由は、リサイクルに回す量が少なくなったからです。(13,902kg減少)

食品リサイクル法で、令和元年に公表された新たな基本方針では、2024年度食品小売業は60%を達成するよう目標が設定されています。目標との乖離が大きく、改善が必要だと感じています。



改善していく為、EMSの目標として設定し、前年度より2%向上させる目標を設定して取り組んでいますが、目標未達成となってしまいました。

リサイクル率の低下の原因は、分別が不十分な事です。賞味期限切れで廃棄になった商品や、鮮度面で販売に向かない農産物などがリサイクルできていないことです。リサイクルするためには、容器包装材を取り除いてリサイクルしなければならないため、手間がかかることから廃棄に回っているのが実態です。

このままでは、2024年度の目標であるリサイクル率60%が達成できない状況です。

EMS教育の中で、食品リサイクル率の向上を重点課題とし、取り組みを強化していきます。

<食品残差のリサイクル>

\*店舗から排出され食品残差は、会津若松市の荒川産業のリサイクル工場で堆肥化され、店舗で販売している土壌改良剤「エコまる」になって、組合員さんの家庭菜園などに利用されています。また、産直農家さんにも利用いただき、リサイクルの輪ができています。できるだけ多くの方にご利用いただきたいと思います。

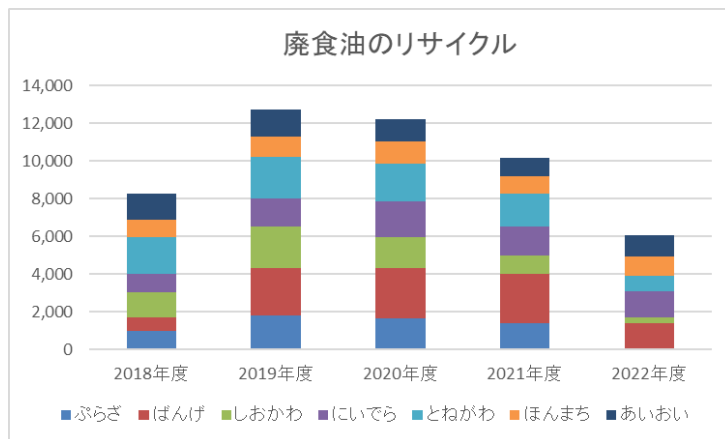


**廃食油のリサイクル ～7,132kgのリサイクルができました～**

店舗の総菜部門などでは、毎日大量の食用油を使用しています。コープあいつでは、使い終わった廃食油はすべてリサイクルしています。

ひがし店・ぷらざ店・しおかわ店から排出された廃食油は、山形市にある「あやめサービス」で回収され、飼料として活用されています。

いいでら店・ほんまち店・あいおい店・とねがわ店・ばんげ店は、会津美里町にある「ピーターパン共同作業所」で回収いただき、バイオディーゼル燃料（BDF）としてリサイクルされ、会津若松市内で走る市内循環バスの燃料等に活用されています。

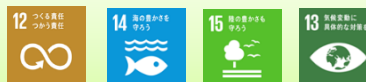


2022年度は、ピーターパン共同作業所で5,710kg（前年度比約73%）、あやめサービスで1,422kg（前年度比約42%）の廃食油のリサイクルができました。

リサイクル総量は、7,132kg（前年度比約64%）となっています。この間、油のろ過機を新しくしており、性能が高くなり、油の汚れが少なくなっている事で、排出され量が少なくなっています。

ピーターパンでのリサイクル BDFづくり

## 環境に配慮した商品の利用普及



コープあいづでは、多くの商品を組合員に提供しています。その商品は、原材料から加工、流通、販売、消費、廃棄のところで、様々な環境影響を与えています。

今日では、日常生活に起因する環境への負荷が増大しており、経済社会システムにおける物質の循環を図るためには、大量消費・大量廃棄型のライフスタイルを改善していくことが不可欠です。そして、消費段階において、環境への負荷の少ない製品やサービスの選択、過剰包装の辞退など、環境への負荷が低減されるような消費行動が求められます。

原材料を確保するために森林資源がなくなっていないか、農園で働く人の健康に配慮しているか、児童労働はないだろうか、製造や流通でエネルギーの無駄な消費はないか、廃棄するときにゴミが増えたりしないかなど、サプライチェーンにまでさかのぼって環境に配慮しているか考えられた環境にやさしい商品を利用していただくことで、少しでも環境負荷を減らし、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。

## エシカル消費は、SDGsの達成手段！



エシカル消費とは、買い物をするときに自分視点だけでなく、環境や社会など他者への視点をプラスする消費のことです。生協ではこれを「誰かの笑顔につながるお買い物」と表現し、「地域」「環境」「社会」「人々」の4つの視点で進めています。

エシカル消費はSDGsの17の目標を実現するための重要な手段の一つなのです。

「エシカル消費」とは、「誰かの笑顔につながるお買い物」



日本生協連発行「コープのエシカル」より抜粋

### <海のエシカル>



世界の水産資源の現状は、約35%が過剰利用、約60%がこれ以上漁獲を増やせない状態です。今後、水産物需要は、人口の増加、健康志向などにより増加すると予測されており、水産資源の減少が加速する可能性があります。

水産資源を守るには、魚を取りすぎないようにルールを定め、しっかり守る事、海の環境を傷つけないようにすることが大事です。

生協では、持続可能な漁業を推奨する団体が認証した海のエコラベルと言われる「MSC認証」や「ASC認証」の商品の利用普及を行っています。

※MSCとは、水産資源を枯渇させないよう、持続可能で環境に配慮した漁業と、そうした漁業で獲られた水産製品の流通に関する認証制度を管理、推進する非営利団体です。「MSC「海のエコラベル」は、海や環境に配慮して獲られた水産物につけることができます。



コープあいづでは、COOPのフィッシュソーセージなどを普及しています。

## <森のエシカル>



森林破壊、気候変動、生物多様性

ほぼ 100 年の間に人類は森林を急速に開発し、世界中で多くの森が失われてしまいました。森林を保全しながら、森からの恵みを持続可能な形で利用できる社会を目指すことが大切です。このことは人間同様に森からの恵みを得ている生物たちの多様性を守り、ひいては地球温暖化などによる気候変動を抑えることにもつながっています。

森を守るためには、森林に手を加え、植林や自然林の保護などを行い、適切な管理が必要です。貴重な紙資源を再利用する事が重要です。適切に管理された木材や再生紙で作られた製品を選ぶことが必要です。

## <FSC認証マーク>

FSC (Forest Stewardship Council:森林管理協議会) は責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする独立した非営利団体で、国際的な森林認証制度を運営しています。

FSC 認証は、適切に管理された認証林やその他責任を持って調達された原材料で作られた製品に、認証ラベルをつけて消費者に届ける仕組みです。

コープ商品では、コープのティッシュペーパーやミックスキャロットの容器などに使われています。



## <レインフォレスト・アライアンス認証>

レインフォレスト・アライアンスはビジネス、農業、そして森林が交差する場所で活動する、国際的な非営利団体です。責任あるビジネスを新しい常識とすることで、人と自然にとってより良い未来を創ることを目指しています。



レインフォレスト・アライアンス認証は、より持続可能な農業に取り組む認証農園産の原料やその製品であることを意味します。

レインフォレスト・アライアンス認証の商品を利用することで、それが結果的に収量と収入の増加につながり、農家、家族、地域社会を支えることとなります。

コープ商品では、コーヒーやカカオ 70%チョコレートなどにマークがついています。



### <RSPO認証のパーム油>

パーム油は熱帯で育つアブラヤシという植物から採れる油で、日本で使われる植物油の 1/4 を占めるといわれています。マーガリンや即席麺、チョコレートなどの食品や石けん、洗剤、化粧品など幅広く利用されています。

パーム油が採れるアブラヤシ農園を広げるために、森を焼いたり木を伐採するケースがあります。それにより、野生生物の減少、温室効果ガスの排出や森を利用する人々との争いが起きています。また、強制労働や児童労働などの問題も発生しています。これらの問題を解決するために発足されたのがRSPOです。

コープ商品では、洗剤ではセフターENERGY やセフターE など、食品にも多く使われています。また、麺フライ油、揚げ油にRSPO認証パーム油を使用しています。(COOPヌードルの揚げ油、マーガリンの油等)



### ◇プラスチックのエシカル

プラスチックに関しては、石油から作られ、燃やせば温室効果ガスである二酸化炭素を発生させます。私たちの暮らしの中に定着したプラスチックを削減することは簡単な事ではありませんが、少しでも使用量を減減することが必要です。

また、プラスチックは分解性が低く、ポイ捨てなどで自然界に放出されると、河川などを経て海に流れ、海洋生物が誤飲すると死に至ることもあります。また、海底の泥の中に大量に堆積するマイクロプラスチックによる生態系への影響も懸念されています。

既に世界の海に存在しているといわれるプラスチックごみは、合計で 1 億 5,000 万トンともいわれ、そこへ少なくとも年間 800 万トンが、新たに流入していると推定されています。このままでは、2050 年には魚の量より多くなると予測されています。

#### 1. 再生プラスチックを使用しています。年間約 647t のプラスチック削減に！

- ・ ビーフカレーの包材の一部に生協で回収したPETボトルをリサイクルしたフィルムを使用しています。
- ・ ただの炭酸水シリーズのPET容器には、再生プラスチックが 96%使用したものに変更しました。また、ラベルのサイズも小さくしています。





2. 植物由来のプラスチックを一部利用しています。
  - ・ トンカツなどのパッケージの一部を、植物由来のプラスチックに替える事で、CO<sub>2</sub>の削減につなげます。
3. 容器包装の形状を変えるなどで、プラスチック使用量を減らしています。
  - ・ さつまあげやおでんの一部で、包装形態を巾着からピローに変更し、袋のサイズを縮小しました。



### ボトル軽量化とラベルをハーフラベルへ



\*写真は、日本生協連発行の冊子、「コープのエシカル 2023」より

## <その他>

コープ商品には、対象商品を買うと売上金の一部が寄付される「寄付金付き商品」の取り組みがあります。商品を選ぶ際に「おいしい、安い、手軽…」にプラスして、「誰かの笑顔」を思い浮かべて買い物をしてみませんか？

### ◇CO・OP×レッドカップキャンペーン



2014年10月よりスタートした取り組みで、飢餓に苦しむ子どもたちに、学校給食を届けるため、国連WFP協会を通じて寄付をするキャンペーンです。

世界では、最大8億2800万人、10人に1人が飢餓に苦しんでいます。

コープヌードルやカップスープなどの対象商品をキャンペーン期間中にご購入いただくと、1品につき1円を国連WFPに寄付され、学校給食を届けるために使われます。

2023年から始める第4期は、引き続きミャンマー連邦共和国を支援します。※2021年2月の軍事政権発足後、政治的社会的に複雑な問題に直面しており、食糧不足が深刻化しています。

昨年度全国の生協による募金総額は約609万円になっています。



### ◇コアノンスマイルスクールプロジェクト



2010年11月よりスタートした取り組みです。「CO・OP コアノンロール」シリーズを1パックご購入いただくごとに1円がユニセフを通じて学校づくりなど、楽しく学べる環境づくりに役立てられます。

昨年度全国の生協による第12期の募金総額は、約1,431万円にもなります。

アフリカのアンゴラ共和国に寄付されています。※アンゴラでは、5人に1人の子どもが教育を受けていません。



## ◇障害者ノルディックスキー応援キャンペーン



COOP 応援食クッキー 1 品につき 1 円を特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟ノルディックスキーチームの次世代を担うジュニアチームに寄付しています。昨年度全国の生協による募金額は、1 月までの集約で約 5 0 万円になっています。



## ◇ピンクリボン運動



コープの化粧品やブラジャー 1 点につき 1 円を、認定 NPO 法人 J. POSH（日本乳がんピンクリボン運動）の「ピンクリボン運動」に寄付しています。昨年度全国の生協による募金額は約 1 6 0 万円になっています。

## ◇ブラックタイガー養殖業改善協力金



「エビ養殖業改善プログラム」に対し、コープのブラックタイガーを使用した商品の購入を通じて寄付する取り組みが、2019 年 3 月にスタートしました。

昨年度、1 月までの途中経過で約 5 9 7 万円となっています



※コープのエシカル消費。こちらもご覧になってください。



## 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動



「誰一人取り残さない世界」をめざして、世界が抱える飢餓や貧困問題についての理解を深め、助け合いの精神で、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。

また、「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

### フードバンクやフードドライブに取り組んでいます ～3,554kg の食品を提供できました～



食品ロスが、社会問題となっています。

世界では 1 0 人に 1 人が栄養不足、廃棄の際の CO<sub>2</sub> 排出、市町村におけるごみ処理経費、日本の食料自給率はカロリーベースで僅か 38%・・・

その中で、フードバンクは、品質には何ら問題のないものの、やむなく廃棄されてしまう食品を無償で提供を受け、支援を必要とする福祉分野の施設・団体に必要な食品を寄贈し、食べられる食品を有効に活用する活動です。食品ロスが大きな社会問題になっており、その対策の一つとしてフードバンクが注目されています。

コープあいづでは、コープ東北が設立した「コープフードバンク」に参加し、会津地域の社会福祉協議会や子ども食堂などで活用していただいています。

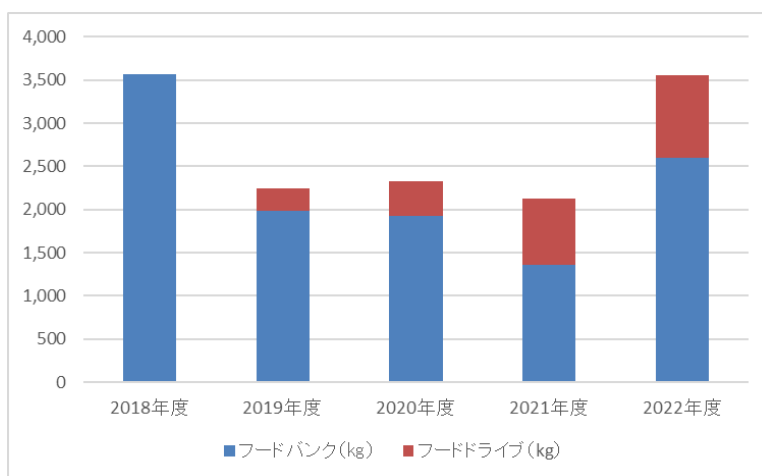
コープフードバンクでは、多くの企業や団体と協定を締結し、物流センターなどでセットする商品で、安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫や、食品製造企業などで、箱が破れていたたり、印字ミスなどの理由で流通に出すことができない食品を企業などから寄贈していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯などに無償で提供する活動を行っています。

2022年度は、フードバンクとフードドライブで3,554kg（前年比約168%）もの食料品を提供する事ができました。新型コロナウイルス感染拡大によって、収入が少なくなってしまうかたも多くあり、必要とされる方は増えているとお聞きしています。

フードバンクでは、2,599kg（前年度対比約191%）の食品を提供しました。フードドライブを開始してから少なくなってきましたが、必要とされる方が増えており、提供重量が多くなってきました。

フードドライブは、これまで店舗で年3回実施してきましたが、2022年度は宅配での取り組みを開始し、店舗がない地域の組合員さんにも協力いただけるようになり、提供重量は955kg（前年度対比約125%）と増えました。宅配を利用されている組合員さんからは、実施期間外に10kgのお米を3回頂き、子ども食堂や会津地域の社会福祉協議会を通じて活用いただきました。

また、3月に行ったフードドライブでは、会津財布様とみずほ銀行様とのコラボ企画にも取り組み、会津財布を利用し、J-coinでお支払いいただいた金額に応じてフードドライブに寄付する取り組みを行い、フードドライブの支援として総額5万円を各社会福祉協議会に寄付する事もできました。



会津若松市社会福祉協議会での贈呈式

組合員さんから頂いた食品は、様々な事情で生活が苦しくなり生活保護を受ける方など、受給が決まるまでの緊急的な食糧支援などに活用されています。子ども食堂で実施するフードパントリーなどでも活用して頂いています。

また、コープあいづでは、こども食堂への支援として、会津若松市で2ヶ所、喜多方市で2ヶ所、会津美里町で1ヶ所に食材などの提供をしており、深刻化する貧困問題を地域の皆さんと一緒に考えていこうと思っています。

#### <フードドライブとは>

一般家庭にある食品を学校や職場、グループ等、様々な機関・団体が拠点となり食品を集め、集まった食品をフードバンク団体や福祉施設等に寄付する運動のことです。

コープあいづでは、消費期限や異物混入のリスクを避けるため、家庭からの商品を集めるのではなく、お店で購入いただいたカップ麺などを寄付していただき、社会福祉協議会を通じて必要とされる方に活用いただいています。

2019年度から活動をスタートさせましたが、この3年間は新型コロナウイルス感染拡大により、ボランティアさんの参加規模を縮小し、大きな声を出さないなどの対策を行い実施しました。

2023年度の取り組みから、社会福祉協議会様やボランティアの皆様と一緒に進めていけるよう、計画しています。

## 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくり



私たちは、誰一人取り残さず、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加する為、自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売など、生協の事業や活動を活用し、地域における役割を果たしていきます。

## 行政や地域の方々と一緒にすすめる環境保全活動



### 行政の会議等に委員として出席しています

コープあいづでは、福島県が主催する「地球にやさしい“ふくしま” 県民会議 会津地方会議」の委員として参加しています。

会津若松市の、「会津若松市3R運動推進会議」の構成団体として参加しています。

※この間、新型コロナウイルス感染拡大の為、会議などは行われていません。



## 「ふくしまゼロカーボン宣言事業」の取り組みに参加しています



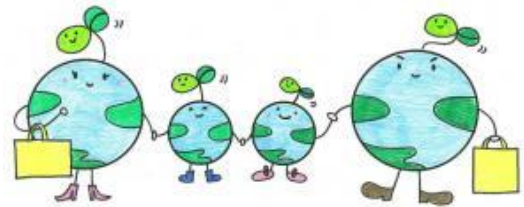
コープあいづでは、福島県が行っている「ふくしまゼロカーボン宣言事業（事業所版）」（旧福島議定書事業）に参加し、2050年までの脱炭素社会の実現に向けて、「ゼロカーボン」を目指し取り組むことを宣言し、取り組みを進めています。

2022年度の評価は、2023年度に行われますが、温室効果ガス排出量の大幅削減、店舗での省エネの取り組みなどが進みましたので、その活動を評価していただければと思っています。



## 福島県が推進している「ストップ・ザ・レジ袋実施店」に登録しています

福島県では、環境に配慮した持続可能な社会の実現に向け、この「レジ袋無料配布中止」の取り組みをさらに促進していくため、地球にやさしい“ふくしま”「ストップ・ザ・レジ袋実施店」参加登録制度を実施しており、コープあいづの全店舗が参加しています。



毎月8日、9日を「マイバッグ推進デー」としており、店内放送などを通じてマイバッグ持参などの呼びかけを行っています。

## 福島県「食べ残しゼロ協力店・事業所」に参加しています



福島県が進める「もったいない！食べ残しゼロ推進運動」に協力する食品小売店として登録し、「閉店間際等の値引き販売」「ばら売り、量り売り、少量パックによる販売」「賞味期限・消費期限が近い商品の値引き販売」「野菜や魚、肉など、少量を希望される方には、カット販売のサービス、少量パックの提供などにも応じる」「業界の1/3ルールに該当しそうな商品も仕入れ、低価格で提供を行っている」などの取り組みを行っています。



※2022年度は、新型コロナウイルス感染予防の為、ばら売りは中止しています。また、各店舗では、廃棄ロス削減の取り組みを行っています。

※イトインコーナーなどで購入した商品を食べた際、食べ残したものをお持ち帰りする際には、福島県が作成したドギーバッグやパックなどをお渡ししています。



## 「あいづわかまつエコ事業所」に登録して環境保全活動に取り組んでいます

会津若松市では、先人が残してくれた豊かな自然を守りつつ、環境への負荷が少ない持続的な発展が可能なまちを作っていく必要があるとし、会津若松市の「第2期環境基本計画」に定めた「事業者の環境配慮指針」のうち、10項目以上に取り組んでいることが条件として、審査によって「あいづわかまつエコ事業所」を認定しています。

コープあいづでは、2014年より「あいづわかまつエコ事業所」に認定されています。<http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2014121000045/>



市環境PR大使の「いいもりん」

## 電気自動車普通充電器を設置しています

にいでら店（会津若松市）にて、電気自動車充電器（普通充電器）を設置し、電気自動車を利用される方への充電にご利用いただいています。

会津地域では、まだ電気自動車は少ないのですが、これから増えていくものと思います。

E V自動車充電器設置の目的は、次世代自動車普及促進により地球温暖化ガスの発生抑制に寄与することでの社会貢献と、組合員さんの利便性向上です。お買い物ついでの、ちょい足し充電として利用いただきたいと思います。



## 組合員さんと一緒にすすめる環境保全活動



コープあいづの分野別委員会の一つとして「環境委員会」があり、組合員さんが自主的な活動として、エコ料理教室、大気測定（NO<sub>2</sub>）や水質検査、清掃活動などのボランティア活動、会津若松市で開催されている「環境フェスティバル」への参加など、幅広い活動に取り組んでいます。

2022年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、清掃活動が中止になるなど、これまでと同じような活動ができませんでしたが、継続的な取り組みを行っています。

## ペットボトルのキャップの回収を行っています

環境委員会では、各所（にいでら店・本部などの回収BOX）や各店の内部職員が集めたペットボトルキャップをごみや汚れがひどいものなどを取り除き、再利用できるように段ボールに詰め替えて運びます。まだまだ、ゴミや缶なども混ざっていて取り除くのに時間がかかりました。



回収したペットボトルのキャップは、荒川産業株式会社「アマルク会津一ノ堰」へ運び、荒川産業様を通じてプラスチック原料として売却され「特定非営利活動法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付しています。

今回お渡ししたキャップは、約 430 kg でした。ペットボトルキャップ 3 kg (約 1,300 個) でポリオワクチン 1 人分と計算されますので今回は約 143 人分になりました。



## コープあいづエコライフチャレンジ

家庭での省エネを進めるために、環境委員会で「エコチャレンジシート」を作成し、取り組みを進めました。より多くの組合員さんに参加していただくために、店頭で配布するなどの取組を行い、262 枚 (778 名分) の回収ができました。

**CO-OP**      **コープあいづエコライフチャレンジ**

私たちの暮らしの中からCO<sup>2</sup>(二酸化炭素)をなるべく出さないことが、地球温暖化防止につながります。それぞれの生活にあった家庭の省エネに一緒に取り組みませんか？

1世帯当たり年間CO<sup>2</sup>排出量＝約5トン → まずは1% (約50.6kg-CO<sup>2</sup>) 削減を目標に！  
 (年間CO<sup>2</sup>排出1%の削減は、スギの木6本分の働きに相当します。)  
 1年間取り組んでみるエコライフチャレンジを、CO<sup>2</sup>排出量1% (約50.6kg) の削減【スギの木5本以上】を目指し**チェック欄にシ点、下記の特にも記入をお願いします。**

チェック	エコライフチャレンジ項目	年間CO <sup>2</sup> 削減効果を木の働きに換算すると
	①テレビを見ないときは主電源を切る。	▲ 約9kg-CO <sup>2</sup> <b>スギの木 約1本分</b>
	②食器を洗うときは温度設定を低めにし、夏場はお湯の使用を控える。	▲ 約19kg-CO <sup>2</sup> <b>スギの木 約2本分</b>
	③冷蔵庫を開けている時間を短くし、物を詰め込み過ぎない。	▲ 約24kg-CO <sup>2</sup> <b>スギの木 約3本分</b>
	④顔を洗う・歯を磨く・シャンプーをしている時は、蛇口を締める。	▲ 約30kg-CO <sup>2</sup> <b>スギの木 約3本分</b>
	⑤室温は夏は26～28℃、冬は20℃を目安にし、冷暖房は必要な時だけつける。	▲ 約70kg-CO <sup>2</sup> <b>スギの木 約7本分</b>

**私の家族は、「\_\_\_\_\_名」で1年間取り組んでいきます。**

## 環境フェスタ特別企画

会津若松市主催の環境フェスティバルは中止となりましたが、代替企画として実施された「環境フェスタ特別企画「会津の未来に向けてできること」」に参加しました。

展示ブースでは環境委員会の活動報告やエコチャレンジシート記入のお願いなどを行いました。



## 大気測定(NO<sub>2</sub>)に取り組んでいます

環境委員会では、大気汚染の原因となる、NO<sub>2</sub>の調査に取り組んでいます。

2022 年度の調査は、3 回実施しました。



## EMS：環境目標の達成状況

### 【方針1関連】

部署	目的目標	目 標	実 績	結果	
全体	事業から排出するCO <sub>2</sub> の排出量を前年比28%以下に削減する(3,808t以下にする。 (前年比-28%))	3,808t	1,433t	○	
店舗	人時生産性を店舗全体で2,454円にする。	全体	2,454円	2,380円	×
		ひがし店	3,115円	3,004円	×
		ぷらざ店	1,683円	1,395円	×
		ばんげ店	2,368円	2,585円	○
		しおかわ店	2,585円	2,183円	×
		にいでら店	2,209円	2,154円	×
		とねがわ店	2,423円	2,342円	×
		ほんまち店	2,202円	2,113円	×
		あいおい店	2,280円	2,225円	×

### 【方針2関連】

部署	目的目標	目 標	実 績	結果
管理本部	36協定違反を削減する。	① 0件	0件	○
	①月80H超残業 発生させない(前年0件)	② 0件	0件	○
	②特別条項年限度 発生させない(前年0部門)	③ 0件	5件	×
	③法定休日違反 発生させない(前年2件)			
	労災の発生を年間10件以下にする(2019年度13件)	10件	7件	○
	有給休暇取得5日以上 100%	100%	100%	○
DC燃料	配送。品揃えミスを0(ゼロ)にする。	0件	2件	×
共同購入	宅配事業の利用者人数を506,106人以上にする。	506,106人	507,587人	○

### 【方針3関連】

部署	目的目標	目 標	実 績	結果	
店舗	廃棄ロスの削減。店舗全体の廃棄ロス率を0.60%以下に抑制する。 ※商品部も同じ目標を設定して取り組む。	全体	0.60%	0.99%	×
		ひがし店	0.70%	0.75%	×
		ぷらざ店	1.00%	1.38%	×
		ばんげ店	0.50%	0.41%	○
		しおかわ店	0.55%	0.62%	×
		にいでら店	0.55%	0.60%	×
		とねがわ店	0.70%	0.94%	×
		ほんまち店	0.50%	0.80%	×
		あいおい店	0.45%	0.47%	×
	食品リサイクル率を2020年度より2%以上向上させる。年度末目標値47.1%	全体	47.1%	39.1%	×
		ひがし店	38.6%	31.2%	×
		ぷらざ店	28.4%	31.3%	○
		ばんげ店	44.7%	38.9%	×
		しおかわ店	33.5%	32.1%	×



		にいでら店	62.8%	52.7%	×
		とねがわ店	47.7%	37.0%	×
		ほんまち店	59.6%	48.0%	×
		あいおい店	61.2%	57.4%	×

部署	目的目標		目 標	実 績	結果
全体	HACCP の A B 評価率を 91% 以上にする。	全体	91%	78%	×

## 【方針 4 関連】

部署	目的目標		目 標	実 績	結果
商品部	年間 G P を 23.6% にする。		23.6%	23.4%	×
	COOP 商品の普及 拡大供給金額 40 億円 (2019 年度比 120% 目標)		401,861,426 円	354,651,754 円	×

## 【方針 5 関連】

部署	目的目標		目 標	実 績	結果
組活	一日エコライフの参加者を 1,200 名以上にする。		1,200 人	778 人	×

## EMS : 環境関連法の遵守状況

主な法規	対象となる施設及び要求事項	順守状況 (2023 年 1 月調査)
消防法	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所の防火対象物の定期点検報告。</li> <li>防火管理者の設置。</li> <li>灯油・軽油・ガソリン等の危険物貯蔵及び管理者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険物貯蔵及び取り扱い管理については問題なし。</li> <li>防火管理者、危険物保安監督者の設置を確認。</li> <li>施設の防火対策は、消防署の立ち合い検査を受け、問題がない事を確認。</li> <li><u>避難訓練の実施が、年 1 回しか行われてない事業所があるので、確実に実施できるように指導していく。</u></li> </ul>
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> <li>年 1 回指定検査機関による法定検査。(第 11 条)</li> <li>法定に基づく保守点検及び清掃。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>点検及び清掃の実施。</li> <li>2022 年度の法定点検はすべて終了。法定基準を超えるものはない。</li> <li>本部は単独式浄化槽なので改善が必要。</li> </ul>
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> <li>排水水質基準の順守。</li> <li>排水事故時緊急措置及び届出。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質基準で問題なし。</li> <li>排水事故等は起きていない。</li> </ul>
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川等への油流失による汚染</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故の発生なし</li> </ul>
騒音・振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定区域内の特定施設の設置の届出。(冷凍機及び空気圧縮機の出力 7.5kw 以上の設備)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>届け出の維持確認済。</li> <li>騒音振動の苦情発生なし。</li> </ul>

<p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般廃棄物、産業廃棄物の委託業者との契約。</li> <li>・廃棄物の保管、管理。マニフェストの発行と管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニフェスト管理で、引き続き電子マニフェスト化を進めた。<u>定期的な処分に関しては全て電子化。</u></li> </ul>
<p>エネルギーの使用の合理化に関する法律</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進者の選任</li> <li>・中長期計画の策定。</li> <li>・定期報告の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進の選任届の実施。</li> <li>・中長期計画及び定期報告の実施。</li> <li>・管理標準を作成し、エネルギー管理を実施。</li> <li>・<u>2022年度も、Aランク評価。</u></li> </ul>
<p>食品リサイクル法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生利用等の実施及び目標の設定。2024年度（令和6年度）までに食品小売業は60%。</li> <li>・定期報告義務。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度分は2023年6月までに報告予定。</li> <li>・2022年度の再資源化は41.5%、前年より2.7%低下している。 <u>※法が要求している水準に達していないどころか、低下傾向。</u></li> <li>・EMS目標に設定し、進捗管理を今日活かしていく事が必要。</li> </ul>
<p>容器包装リサイクル法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用量に応じたリサイクル義務。</li> <li>・排出抑制義務（店頭回収の促進、レジ袋の削減）及び報告義務。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・容器包装の使用量は、111,242 kg。前年比約102%と増加。</li> <li>・トレーの店頭回収は、6,853 kg（発泡トレー4,419 kg、透明トレー2,434 kg）。前年比約99%と前年より少し減少。</li> <li>・レジ袋削減の取り組みは、持参率89.1%と前年より若干低下した。</li> <li>・遵法上の手続き 委託契約は、2023年2月に実施済。 定期報告は、2023年6月に報告予定。</li> </ul>
<p>資源有効利用促進法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分別回収のための表示義務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PB商品は、メーカー点検で実施。問題ないことを確認した。</li> </ul>
<p>フロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロン引渡しにおいては「委託確認書」の交付と「引取証明書」による引渡し終了の確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロンの漏えい量の把握、<u>CO<sub>2</sub>排出量換算で1,266トン-CO<sub>2</sub>。前年比約144%の増加。</u>*1000ト以上となり、報告が必要。</li> <li>・今後、老朽化した冷凍冷蔵ケースの買い替えを早急に進めていく事が必要。</li> </ul>
<p>会津若松市、喜多方市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイバッグ、マイバスケットの持参の呼びかけ。</li> <li>・マイバッグ、マイバスケットの販売。レジ袋の辞退数、マイバッグ、マイバスケット持参率など削減状況を市に報告。</li> <li>・レジ袋の無料配布の取りやめ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会津若松市、喜多方市への定期報告の実施。</li> <li>・会津若松市と、「レジ袋削減協定」を締結中。</li> <li>・福島県とは、「ストップ・ザ・レジ袋実施店」に登録。</li> <li>・毎月8日と9日は、福島県の「マイバッグデー」として、店内放送での啓蒙活動を行っている。</li> </ul>

福島県におけるレジ袋の削減に関する協定	・マイバッグ等の持参を呼びかけ、レジ袋の削減の取り組みの推進。	・レジ袋辞退率は 89.1%（前年比-0.3%）。
PCB 処理特別措置法	・PCB 廃棄物の届出・保管	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ばんげ店の解体時出された、蛍光灯の安定器を処分した。</li> <li>・本部とDCの蛍光灯安定器を調査した結果、本部に高濃度PCBが含まれているものが35台（150.5kg）、DCより微量PCBを含む可能性があるものが100台（465.4kg）見つかった。</li> <li>・県への届け出及び、処分の契約を行った。</li> </ul>

## EMS：内部環境監査

### 1. 監査の目的

2021年度の内部環境監査の結果を踏まえ、各事業所でどのような環境保全活動の活動が進められ、改善が進んでいるか内部環境監査を実施しました。

#### 1) 監査の目的

- ・環境マネジメントシステムがISO14001の要求事項に適合し、適切に実施され、維持及び向上する取り組みになっているかを評価判定する。
- ・計画された実施計画が実行されているかを点検する。
- ・法令順守の状況及び、各種の監視測定（点検・評価）の状況とPDCAを回すマネジメントができているかを確認する。
- ・事故や重大な過失、不正につながる内部統制の機能上の問題点がないか確認する。\*重点リスクへの対応（リスクコントロール）

#### 2) 監査の重点

- ・EMS目標の進捗確認
  - 目標達成の為の手段は明確になっているか。
  - 手段は具体的で、目標に見合った計画になっているか確認する。
  - 進捗報告書に記載されなくても、方針や年間計画等で明確になっていれば良い。
  - 目標達成の為の活動が、有効な手段で全員が参加して行われているか。
  - 事業所全体の取り組みとする為、目標達成状況や是正内容が、部門などへブレイクダウンされているか確認する。
  - 目標や進捗状況が全員に伝えられ、目標未達成の場合には具体的で適切な改善策が取られ、PDCAが回されているか。
  - 設定された目標について、9月度までの進捗確認と、目標未達成の場合に取られた原因究明と是正対策の有効性の確認。\*PDCAが確実に回されているか。

- ・ 順法状況の確認
  - 改正省エネ法、改正フロン法、消防法、食品リサイクル法、個人情報保護法、食品衛生法、労働安全衛生法、下請法、景品表示法、著作権法、等
  - 改正フロン法で求められている、有資格者による点検が行われたか確認する。自主点検についても確認する。
  - 個人情報保護に関しては、今年度洗い出しが行われているので、適正に管理されているかを確認する。\*昨年度まで実施できていない項目なので、確実に確認する。
- ・ 内部統制の状況
  - コンプライアンス体制、情報管理体制、リスク管理体制、職務の効率性確保
  - 業務の効率性と有効性：業務活動の目的達成の為に業務の有効性と効率性が高められているか確認する。
  - 法令等の順守：業務活動に関わる法令や規範を遵守しているか確認する。
  - 個人情報管理において、個人情報の特定と管理が確実にされているか確認する。
  - セキュリティ対策として、パソコンのログイン時のパスワード管理について確認する。
  - 財務報告の信頼性を確保しているか。資産の保全が図られているか確認する。
  - 整理整頓の状況について確認する。文書の保管状況について確認する。

## 2. 対象部門

コープあいつの計17サイトを監査しました。

- ・ 本部（役員室、組活、品質管理室）、管理本部、店舗運営部、商品部、開発室、生活事業部
- ・ 店舗：ひがし店、ぷらざ店、ぼんげ店、しおかわ店、にいでら店、とねがわ店、ほんまち店、あいおい店
- ・ 共同購入センター（共同購入、燃料課）、DC燃料課
- ・ 環境事務局

## 3. 実施期間

- ・ 10月21日（金）～10月28日（金）（1サイト2時間を目安に実施）

## 4. 監査方法

- ・ 監査員2人以上でチームを編成し、チェックリストを用いて実施しました。
- ・ 監査員の都合がつかず、1名で実施した事業所もあります。

## 5. 監査員

- ・ 理事長から指名された16名

## 6. 監査結果

### 1) 監査の目的に対する結果

2021年度内部環境監査の結果を踏まえ、各事業所でどのような環境保全活動の活動や内部統制に関



わる管理について、改善が進んでいるか内部環境監査を実施しました。

環境マネジメントの運用では、システムのな不適合はなく、各事業所で活動がされていました。

しかしながら、ISO14001からの運用が継続されており、やや形骸化したところが見られ、進捗報告書が十分に活用されていない、運用管理項目の意味や意義が理解されていないところがみられます。簡易で現場の責任者が分かりやすい仕組みへの更新が課題となっています。

また、この間の課題となっていますが、目標達成の為に活動計画が明確になっていなかったり、計画が未達成だった時の改善策が目標達成の為に有効なものとなっていなかったりする所見がまだ出されています。事業目標を確実に達成していくためには、PDCAを確実に回し、原因の追求とそのため具体的な是正処置が確実に進むよう、マネジメントを強化していく事が必要です。

教育では、就業規則や労務管理などの教育は責任者によって実施されていますが、環境や品質管理の教育は、現場の責任者が行っていますが、抜けてしまう事が多くなっています。

また、品質管理の温度管理も担当者の休日などに実施できていないところもあります。温度管理の意味や必要性を理解して行うことが必要です。

教育の重要性を現場の責任者も理解し、教育が確実に実施されるよう、管理者教育も強化していく事が必要です。

遵法管理は、個人情報のパスワード管理やフロン法の簡易点検など、一程度前進しましたが、全体で管理されていないもののパスワード設定や簡易点検の実施遅れなどがあります。コンプライアンス意識の醸成を図り、確実に実施できるよう、責任部局からの指示や点検を強化していく事が必要です。

リスク対応では、震災や災害に対する対応手順の理解が不足しています。特に、休日や夜間での震災や災害発生時、どのような行動をしたら良いのか、どのような備えが必要なのか、コープ東北のBCPはありますが、現場でもわかりやすいものが必要です。

業務の効率性では、書類の整理が必要です。監査で、必要な書類がすぐに出ない、どこにあるのかわからないことがまだあります。引継ぎが確実にされていない面もありますが、引継ぎが確実にできるよう、管理するファイルの統一などを行い、誰でもわかるような書類の管理をしていく事が必要です。

今回の監査で、良い事例も見出せました。

ばんげ店では、店長掲示板が活用されており、「2022年度ばんげ店年間目標！」が掲示され、事業目標とEMS目標、節電やトレ回収強化が示されています。また、周知徹底の為に、各部門のバックヤードにも掲示され、職員全体が店舗の目標を共有できています。

また、昨年度も評価した「できた事・次年度への課題カード」を運用されていますが、具体的な数値や対策が記入されており、内容がブラッシュアップされています。また、店長のコメントで取り組みの評価がしっかりされており、現場でのやりがいにつながっています。その運用が十分行われている事で、廃棄ロスの削減につながっていました。

良い事例をお互いに学び、全体のボトムアップにつなげていく事が大事だと思います。

結論としては、EMS（環境マネジメントシステム）は概ね構築されていると判断しますが、マネジメントシステムが形骸化しないよう、仕事に役立つものとして活用していけるよう、仕組みの簡略化や活動の見える化、進捗報告書などの活用など、見直しが必要だと思います。

## 2) 監査で気づいた改善点（所見数）＊（ ）内は、昨年の数値

- ・ 所見総数：50件（42）
- ・ 不適合B：2件（8）、観察：30件（13）、推奨：6件（11）、プラス：10件（11）
- ・ 所見なし：2件

## 7. 付記事項

昨年より、活動が進んでいますが、目標達成の為の活動で、改善がすすんでいる事業所と、改善がされていない事業所との差が出てきています。監査所見でも、同様の所見が続いている事業所もあります。

マネジメントシステムは、仕事に役立つものとしなければなりません。うまく機能していないところがあると思われ。その原因は、マネジメントシステムが良く理解されていないという事やシステムが良く理解されていないことなどが考えられます。

また、良い事例は少しずつ広がってきてはいますが、もっと横への広がりがあると良いと思います。

マネジメントシステムを理解する事や、お互いに改善の為に知恵を出し合っていく為にも、マネジメントの責任者が監査員を務め、お互いに監査することでの気づきや改善の機会になるものと思われ。

## 8. 是正確認

各指摘事項については、軽微以上の指摘は、担当監査員が是正措置または是正計画の有効性を確認します。

尚、是正計画及び是正の有効性については、3ヵ月後に事務局が、実施状況を確認するようにします。

※実施済

## EMS：環境データ

### 1. 使用量

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2021年度	前年比
電気使用量(kwh)	9,216,069	9,370,712	9,150,698	8,735,665	8,253,925	94.5%
LPG使用量(m3)	79,358	83,080	79,000	74,819	64,047	85.6%
灯油使用量(L)	19,511	7,013	30,855	34,603	17,967	51.9%
軽油(L)	99,828	97,822	128,043	114,078	118,544	103.9%
ガソリン(L)	20,490	22,821	19,791	19,891	23,973	120.5%
水道使用量(m3)	45,495	43,116	38,598	38,445	37,153	96.6%
紙 合計(kg)	361,027	362,644	339,811	370,827	368,443	99.4%
商品案内	292,320	286,400	270,240	293,520	298,240	101.6%
チラシ	54,392	61,134	55,821	59,099	53,812	91.1%
POP用紙	5,116	5,962	4,831	7,880	5,919	75.1%
コピー用紙	9,199	9,148	8,919	10,328	10,472	101.4%
プラ容器(kg)	93,565	93,312	91,208	79,076	81,533	103.1%
プラ包装(kg)	20,240	22,031	154,412	20,220	21,325	105.5%
紙 容器(kg)	613	793	589	442	776	175.7%
紙 包装(kg)	933	1,261	335	607	278	45.8%
PETボトル	438	441	396	678	340	50.2%

- ・ 店舗で、天井照明の消灯やショーケースの照明の一部消灯などの省エネ営業を行い、削減ができました。
- ・ 暖冬の為、融雪ボイラーで使用する灯油が節約できました。
- ・ 軽油やガソリンは、事業拡大によって増加しました。
- ・ 容器包装は、新型コロナウイルス感染予防対策として、総菜などを個別パックにしたために増えています。

### 2. CO2 排出量

	2013年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年比	
電気	5,353	5,138	4,866	4,882	4,551	825	-3,726	18%
灯油	140	111	49	34	86	45	-41	52%
LPG	571	541	484	506	456	192	-264	42%
ガソリン	58	53	48	53	46	60	14	130%
軽油	274	262	258	252	299	311	12	104%
CO2排出量	6,396	6,105	5,703	5,728	5,434	1,433	-4,001	26.4%
2013年度比		95.5%	89.2%	89.5%	85.0%	22.4%		

- ・ 電気に関しては、基礎排出係数を使用しています。
- ・ 電気は、省エネが進んだことと、電気の調達を再エネ比率の高いものに変更したことで、大きく削減ができています。

## 3. リサイクル量

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2021年度	前年比
牛乳パック(kg)	10,719	7,778	8,970	9,292	8,454	91%
発泡トレイ(kg)	6,162	5,475	4,794	4,580	4,419	96%
透明トレイ(kg)	5,208	2,436	2,174	2,318	2,434	105%
発泡容器(kg)	20,527	25,618	40,970	41,780		0%
内袋(kg)	1,900	2,080	2,000	2,080		0%
商品案内(kg)	321,400	312,010	300,080	308,630	297,550	96%
食品残さ(kg)	169,472	182,583	164,122	159,992	146,090	91%
廃食油(kg)	10,143	13,503	13,412	11,200	7,132	64%
エコステ(kg)	39,948	36,030	37,090	15,980	18,740	117%

## 4. レジ袋辞退率

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年比
使用重量(kg)	4,486	4,127	3,574	3,430	3,139	91.5%
レジ袋辞退率	87.5%	87.7%	89.7%	89.3%	89.1%	99.7%

## 5. 食品リサイクル率

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年比
使用重量(kg)	4,486	4,127	3,574	3,430	3,139	91.5%
レジ袋辞退率	87.5%	87.7%	89.7%	89.3%	89.1%	99.7%

## 6. 商品案内配布量、回収率

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年比
配布量kg	332,367	310,642	297,367	309,120	298,240	96%
回収量(kg)	321,400	312,010	300,080	308,630	297,550	96%
回収率	96.7%	100.4%	100.9%	99.8%	99.8%	99%

- ・ 担当者ニュースやセンター発行のチラシなどの重量が正確に把握できていない為、配布量の実績が少なくなり、回収率が100%を超えている年があります。

## 7. 産業廃棄物排出量

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度比
安定型混合廃棄物	8,944	7,488	7,696	4,680	60.8%
汚泥(泥状のもの)	13,860	16,720	18,260	18,370	100.6%
下水汚泥	35,750	24,750	37,400	42,900	114.7%
発泡スチロール	12,659	12,499	41,780	41,860	100.2%
発泡ポリスチレン	62,400	60,000	2,080	2,000	96.2%
蛍光灯				10	#DIV/0!
伐採材・伐根材			1,100		0.0%
廃PCB等				100	#DIV/0!
合計	133,613	121,457	108,316	109,920	101.5%

- ・ PCB廃棄物(蛍光灯安定器)の処分行いました。



## 7. 環境会計

環境保全効果					
環境保全効果を表す指標				2022年度実績	2021年度との差
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入	水 光 熱	電気(kWh)	8,253,925	-481,740
			ガス(m3)	64,047	-10,773
			灯油(L)	17,967	-16,636
			水(m3)	37,153	-1,292
			燃料 軽油(L)	118,544	4,466
			ガソリン(L)	23,973	4,082
	エネルギー消費によるCO2(t)			1,433	-4,001
	廃棄物の排出(kg)				-296,232
	廃棄物のリサイクル量		食品残さ、廃食油(kg)	146,090	-13,902
	上・下流コストに対応する効果	事業活動から算出する財・サービスに関する効果	レジ袋使用重量		3,139
回収リサイクル量(kg)			牛乳パック	8,454	-838
			食品トレイ	6,853	-45
			商品案内	297,550	-11,080
			ビン	266	97
			缶	260	40
			PET	423	108

\*生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト（廃製品・包装などのリサイクル、リユースおよびグリーン購入コストなど）

## 2022コープあいづ 環境報告書

この環境報告書は、2022年度の活動をまとめて作成しています。

発行日 2023年5月1日  
 対象期間 2022年3月21日～2023年3月20日  
 発行 生活協同組合コープあいづ  
 福島県喜多方市字二丁目 4669-2  
 お問い合わせ先 コープあいづ 役員室 新山敦司  
 TEL 0241-22-1041 FAX 0241-24-3504  
 Mail a\_niiyama@coop-aizu.jp

※環境報告書は、コープあいづのHPでも公開しています。

カラーとなっておりますので、ぜひご覧ください。

[http://www.coop-aizu.jp/eco/2022\\_eco\\_report.pdf](http://www.coop-aizu.jp/eco/2022_eco_report.pdf)